

ブルガリア月報〔09年12月～10年1月〕

平成22年2月
在ブルガリア日本国大使館

概観

【政治・社会】

・欧州委員候補であったジェレヴァ外相が、欧州議会で資質を厳しく追及され候補を辞退、同時に外相も辞任、閣僚交替となった。

・ボリソフ首相は、独、トルコ、イスラエル等近隣の主要国を訪問。

【経 済】

・09年の財政収支上ではEU加盟国中最も低い赤字幅。一方で失業率は上昇（09年12月時点で9.13%）、景気対策を望む声も高く、野党他はデヤンコフ財務大臣の経済政策に対する批判を強めている。

【我が国との関係】

- ・「第20回日本文化月間」「日・ブルガリア外交関係再開五十周年」閉幕
- ・プロヴディフ市小学校衛生施設を改修（草の根・人間の安全保障無償資金協力）
- ・プロヴディフ市「ブルガリア復興期博物館」展示機材を整備（文化無償資金協力）

この月報はブルガリア各種メディアの報道ぶり等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

政治・社会

1. 内政

◆ ジェレヴァ外相辞任と閣僚交替

▶1月19日、ジェレヴァ外相（欧州委員候補）は全ての公職を辞任する意向をボリソフ首相宛書簡で伝えた。辞任の理由として、欧州議会による信任を得られない可能性があるかと判断したためと記している。それに先立ち行われた欧州議会のヒアリングにおいて、同人は欧州委員としての資質を厳しく追及されていた。

▶同辞任を受け、ボリソフ首相はムラデノフ国防相（元欧州議員・国民議会議員、中東地域・国際紛争等の専門家）を新外相に、アンゲロフ国防次官（軍人出身）を国防相に指名、1月27日、国民議会は右指名を承認（賛成129 反対69）、両名が新大臣に就任した。

▶また、欧州委員候補には、クリスタリーナ・ゲオルギエヴァ世銀副総裁が改めて指名された。

2. 外政

◆ ボリソフ首相：イスラエル及びパレスチナ自治区訪問（1月11～12日）

▶ボリソフ首相は体制移行後初となるイスラエル訪問を行った。ペレス大統領、ネタニヤフ首相らと会談を行った他、防衛協力、安全保障、投資、観光等に係る覚書が署名された。「ボ」首相はネタニヤフ首相を今夏ブルガリアへ招待した。また、現地のブルガリア・コミュニティ代表らとも面談した（イスラエル在住のブルガリア人は約5万人と推定されている）。

▶「ボ」首相はパレスチナ自治区も訪問、アッバース大統領、ファイヤード首相らと会談。アッバース大統領は、PA及びパレスチナ人に対するブルガリアの支援を評価した。また「ボ」首相は、首脳会談後、両国は今後様々な分野で協力を促進する旨述べた。

◆ ムラデノフ国防相：アフガニスタン訪問

(1月20～24日)

▶ムラデノフ国防相は、アフガニスタンを訪問し、カリム=ハリリ副大統領、バルダック国防相、ISAF軍司令等と会談。「ム」国防相はアフガニスタン各地(カンダハル、カブール、ヘラート)のブルガリア軍を1カ所に集めることで効率改善を図り、より多くの兵士を派遣することを提案した。
▶また、国防相はカンダハル及びカブール空港の警備にあたるブルガリア兵を訪問し、激励した。
なお24日、滞在先のカンダハルで僅か数百メートル地点がタリバン勢力に爆破され、ブルガリア人兵士4名が重軽傷を負うという事件があった。
▶なお、「ブ」は、アフガニスタンに総額50万米ドル相当の人道支援、1200万ユーロ相当の武器・弾薬(2006～)を供給、また外務省外交研究所においてアフガニスタンの若手外交官研修を実施している。

◆ボリソフ首相：独訪問(1月24～26日)

▶今次訪問は昨年夏のGERB政権発足直後にメルケル首相より招待があったもの。ツヴェタノフ

経済

1. マクロ経済

◆2010年経済成長

▶政府は本年の経済成長を0.3%と予測している。ジャンコフ財務相は、プラス0.3%の成長というのは極めて現実的な数字だが、プラス1%との予測は楽観的過ぎだろうと述べている(本年の予算はGDP成長率がマイナス2%となることを仮定して組まれている)。

▶EBRDは昨年10月時点での予測(マイナス1.5%)から上方修正し、本年の成長率を0.7%とした。一方IMFやEUは悲観的であり、それぞれマイナス2.5%、マイナス1.5%と予測している。

◆1月の財政収支は7億レヴァの赤字

▶1月28日、ジャンコフ財務大臣は、1月の財

内相、トライコフ経済相、プレブネリエフ地域開発相、ライコフ外務次官等総勢35名が随行した。

▶25日、「ボ」首相と「メ」首相の会談では、EUのエネルギー政策の他、EUの拡大及び地球温暖化に対する環境政策の他、ブルガリアのユーロ圏及びシェンゲン協定への加盟及び汚職対策等につき協議。また、両者は、メルケル首相が10月11～12日にソフィア訪問することで合意との由。

◆ボリソフ首相：トルコ訪問(1月29～30日)

▶ボリソフ首相がトルコを訪問し、エルドアン首相、ギェル大統領、イスタンブール市長らと会談した。エルドアン首相との会談では、西バルカン地域の地域協力、アフガニスタン、イラン、エネルギープロジェクト、二国間問題(バルカン戦争後のトルコを退去させられたバルカン難民の問題)等を協議。

▶首脳会談後の記者会見で、ボリソフ首相は「ブルガリア・トルコ両国関係は政党の仲介を必要としない」と発言、暗にMRF(トルコ系政党、野党中道)のことを指しているとして注目された。

政収支は約7億レヴァ(対GDP比1%)の赤字となったと発表した。

▶しかし業況判断指数は、建設業やサービス産業での楽観的な見通しを受け3.1ポイント上昇している。双方ともに需要が高まっていくと見られているが、その一方で産業界全般でのリストラは3月頃まで続くものと見られる。

◆ユーロ導入

▶ボリソフ政権における財政・外務政策の目玉のひとつであるユーロ圏加入については、非常に長い道のりとなりそうだ。ジャンコフ財務大臣は当初2009年11月にはERMIIへ参加すると発言していたが、EU加盟国における多額の債務問題のため、本件は本年1月以降に先延ばされてしまった。また昨今ではギリシャの債務問題が発生し、さらに先延ばしされることとなり、現時点で

はERM II参加は早くても6月末ごろになり、ユーロ導入時期も2013年か2014年になるとみられている。

◆付加価値税を2011年から18%に

▶1月21日、デヤンコフ財務大臣は来年2011年より付加価値税を現行の20%から2%引き下げ、18%とすると発表した。また外国投資誘致の観点から、現政権の任期内にさらに2%引き下げ最終的には16%にするとのこと。一方、付加価値税還付期間も45日から30日に短縮されている。

2. その他

◆再生可能エネルギー開発を凍結

▶再生可能エネルギーに関する認可において、将来的には環境影響評価に加え、電力公社電力網への接続に関する情報も要求されると環境省が発表した。また農業省でも肥沃な土壌の多くが再生可能エネルギー用の土地として目的変更されている現状に鑑み、国内の土地を肥沃度によって分類し、肥沃度の高い1~4のカテゴリーに属する土地の目的を農業から産業用に変更することを禁じる変更を実施するべく準備している。このような新たな再生可能エネルギーに対する規制は、投資家の数を大きく減少させるであろうと見られている。

◆タバコの不法販売が40%増

▶1月26日、タバコ業界の試算によると、本年1月よりタバコに対する目的税が増税された影響からタバコの不法販売による売り上げが40%増にもなると発表された。ブルガリア国内市場における不法販売シェアは約30%とみられるが、昨年の15%から1年で倍増したことになる。現在ブルガリアでは8社により50以上の銘柄が販売されているが、不法販売の影響により2009年の売り上げは約150億本（前年比30%減）となった。

◆ルーマニアとのガス・パイプライン計画

▶ルーマニアとブルガリアを結ぶガス・パイプライン計画は本年11月に完成する予定であるとトウドル・シェルバン・ルーマニア経済次官は述べた。ガス・パイプラインはルセ・ギュルゲヴォ（ルーマニア名：ジョルジュ）間を結び、ブルガリアでの年間消費量の半分に等しい年間15億立方メートルの供給能力を持つ。天然ガスは双方向に供給可能となり、総事業費2800万ユーロ。そのうち1000万ユーロは欧州委員会より補助金として支給されている。

◆グレー・エコノミーはGDP比37%に

▶VISA EUROPE社の調査によると、ブルガリアの間接経済はGDP比37%、約80億ユーロに達することが判明した。これは2009年に高い経済成長を達した16カ国のうち最大の規模であると同時に、市場規模自体は最も小さい。

◆ブルガリア・ロシア経済・科学・技術協力担当政府間委員会会合開催（ソフィア1月10日-11日）

▶露よりシマトコ・エネルギー相、「ブ」よりトライコフ経済エネルギー観光相らが出席。なお、「ブ」は、露から黒海経由で欧州に至るサウスストリーム・ガスパイプラインの輸送量拡大を原則的に支持し、右パイプラインを欧州全体に係る重要事業と宣言する考えを示した。

=====

我が国との関係

◆ 「第20回日本文化月間」「日・ブルガリア外交関係再開五十周年」閉幕

▶12月2日、国立劇場イヴァン・ヴァソフで行われた新内節浄瑠璃と八王子車人形公演をもって「第20回日本文化月間」及び「日・ブルガリア外交関係再開五十周年」が閉幕、人間国宝・第十一代鶴賀若狭掾氏の音頭により、満員千名の来場客が三本締めで締めくくった。期間中、計16件の日本文化紹介事業がソフィアを含むブルガリア国内5都市で開催された。

◆ プロヴディフ市：小学校衛生施設改修及び博物館展示機材整備

(草の根無償供与式、

文化無償完成式)

▶岡山市と30年以上に亘って姉妹都市関係にあり、我が国と縁が深いプロヴディフ市において、12月18日、我が国の無償資金協力によって行われた、小学校の施設改修（供与式）と博物館の展示機材整備（完成式）の記念式典がそれぞれ行われた。

▶プロヴディフ市アレコ・コンスタンチノフ小学校の衛生施設（トイレ）の改修は、1998年にブルガリアで開始された草の根・人間の安全保障無償資金協力事業のひとつ。同事業は累計69プロジェクトが実施され、総額約250万ユーロが拠出されている。

▶一方、オスマン・トルコからの解放・独立運動に関する貴重な史料・文化財が保存され、国の重要文化財に指定されているブルガリア復興期博物館に対し展示ケース整備の目的で26,038ユーロが供与され、新たに32ケースが新調された。同博物館のあるプロヴディフ歴史保存地区では、2003年、UNESCO日本信託基金により同博物館を含む7件の歴史的家屋の修復が完了している。

=====

ブルガリア内政・外交の動き（12月）

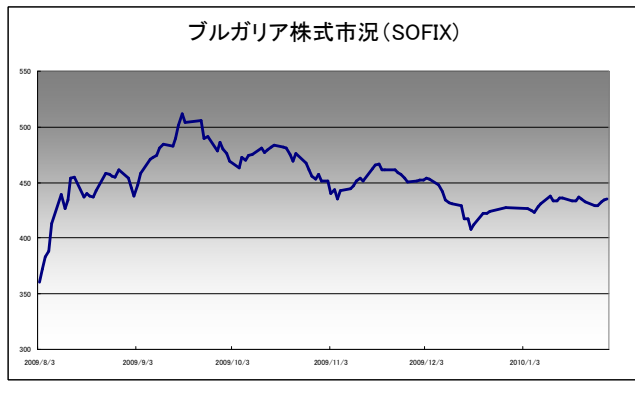
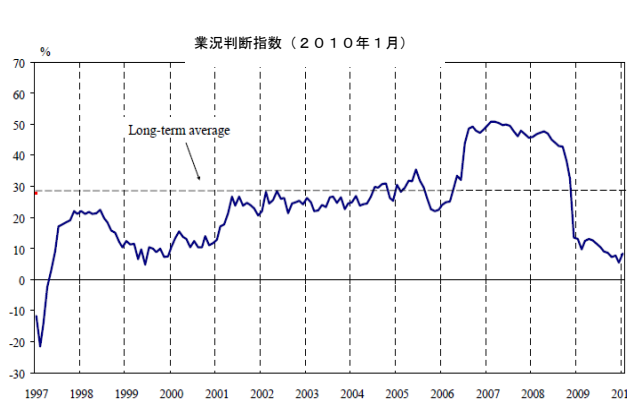
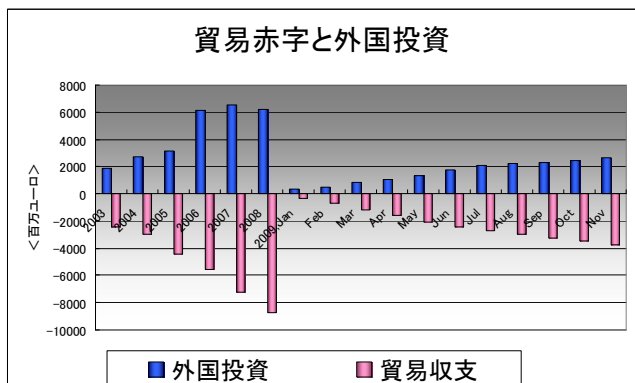
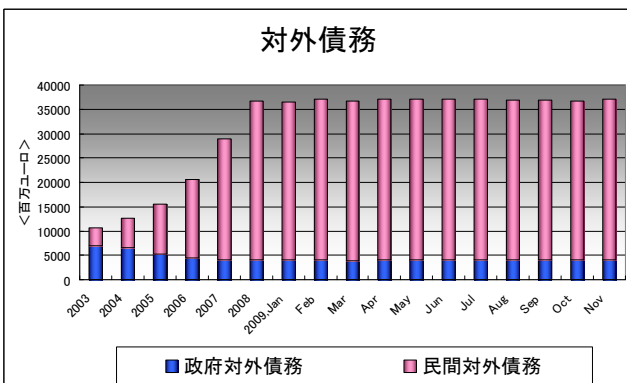
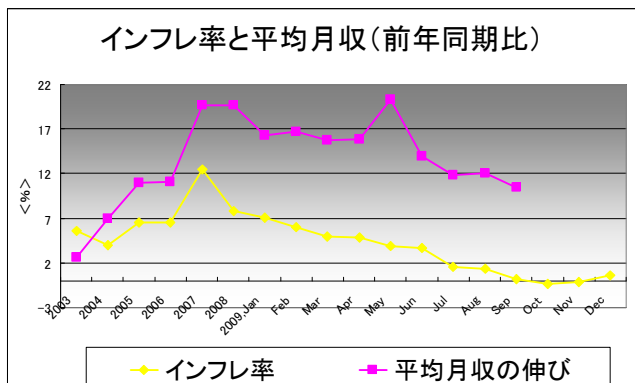
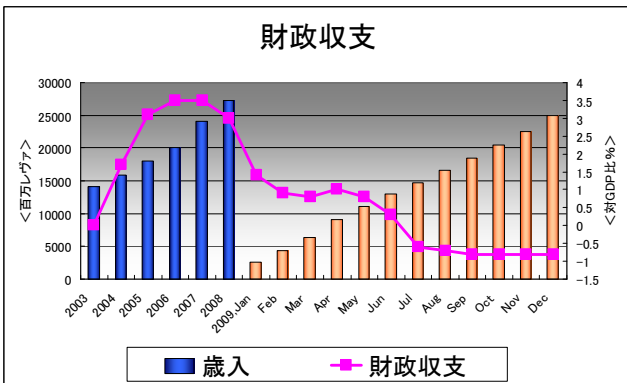
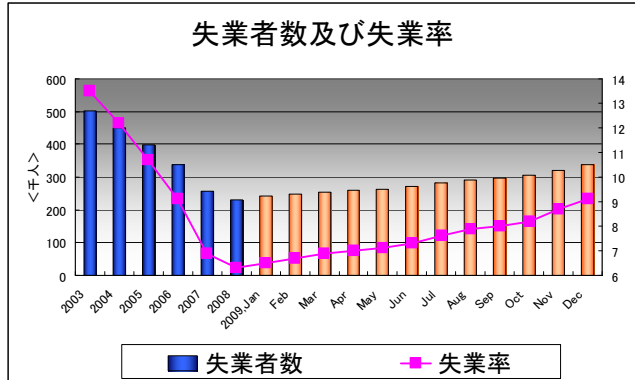
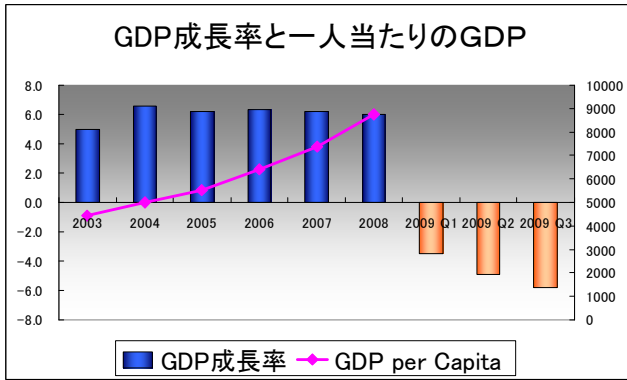
在ブルガリア大使館

1（火）	☆リスボン条約発効
4（金）	☆モーニングスター米国ユーラシア・エネルギー問題特使：ブルガリア訪問。パルヴァノフ大統領らと会談。 ☆ジェレヴァ外相：NATO国防大臣会合出席（於：ブリュッセル）
9（水）	☆ボリソフ首相：欧州人民党大会出席（於：独ボン。～10日） ●「秩序・法及び正義」（野党右派）が議員1名の同党脱退により院内会派の要件（最低10議席）を満たさなくなった。同党は政府への閣外協力も停止。
10（木）	☆ボリソフ首相：欧州理事会出席（於：ブリュッセル）。（～11日）
11（金）	☆ブルガリア・露経済・科学・技術協力担当政府間委員会会合（於ソフィア、～11日）
12（土）	☆ツァチェヴァ国民議会議長：欧州各国国民議会議長・欧州議会議長会合出席（於ストックホルム）リスボン条約の各国議会への影響及び議会間交流等につき協議。
14（月）	☆ファン＝ロンパウ次期欧州理事会議長：ブルガリア訪問。
16（水）	☆ジェレヴァ外相：パチカン訪問。ベネディクト16世に謁見。
17（木）	☆ボリソフ首相：COP15出席（於コペンハーゲン、～18日）。
19（土）	☆イヴァノフ・マケドニア大統領、パルヴァノフ大統領：両国の国境で会談。

（1月）

10（日）	●GERB党大会：ボリソフ首相がGERB党首に就任（ツヴェタノフ前党首は副党首に）
11（月）	☆ボリソフ首相：イスラエル訪問。（～12日） ☆ツァチェヴァ国民議会議長：ブリュッセル訪問。ブゼック欧州議会議長と会談。（～12日）
12（火）	☆欧州議会：ジェレヴァ欧州委員候補ヒアリング実施
15（金）	☆ボリソフ首相：パパンドレウ希首相と会談。両国の新しい国境開設（Zlatograd-Xanti間）。
18（月）	☆ディミトロフ外務次官：EU外相臨時会合出席（ブリュッセル）訪問。 ☆対ギリシア国境のギリシア側でギリシア農家が抗議運動として国境を遮断。
19（火）	●ジェレヴァ外相：全ての公務からの辞意を表明
20（水）	☆ムラデノフ国防相：アフガニスタン訪問。（～24日） ●ボリソフ首相：イリアン・ミホフINSEAD教授を副首相（新設ポスト）にと発言
21（木）	☆ゲオルギエヴァ新欧州委員候補、バローゾ委員長と面談
24（日）	☆ボリソフ首相：独訪問（～26日）
27（水）	●国民議会：ムラデノフ新外相、アンゲロフ新国防相承認、同日両大臣就任
28（木）	☆ムラデノフ新外相：ロンドン会議出席 ●政府：2010年GDP予測を発表
29（金）	☆ボリソフ首相：トルコ訪問。

ブルガリア経済指標（2010年1月）



出所：統計局、中銀、ソフィア証券取引所

ブルガリア主要経済指標

<GDP成長率と一人当たりのGDP>

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009 Q1	2009 Q2	2009 Q3
GDP成長率(%)	5.0	6.6	6.2	6.3	6.2	6.0	-3.5	-4.8	-5.8
GDP per Capita (euro)	4426	4989	5529	6411	7379	8753			

<失業者数及び失業率>

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009 Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
失業者数(千人)	501	451	397	338	256	232	241	248	255	261	262	270	282	292	298	305	321	338
失業率(%)	13.5	12.2	10.7	9.1	6.9	6.3	6.5	6.7	6.9	7.0	7.1	7.3	7.6	7.9	8.0	8.2	8.7	9.1

<財政収支>

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009 Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
歳入 (million BGN)	14070	15855	17991	20023	24063	27317	2616	4267	6400	9101	11044	12955	14751	16582	18525	20543	22476	25022
財政収支 (対GDP比)	0	1.7	3.1	3.5	3.5	3	1.4	0.9	0.8	1.0	0.8	0.3	-0.6	-0.7	-0.8	-0.8	-0.8	-0.8

<インフレ率と平均月収>

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009 Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
インフレ率(前年同期比: %)	5.6	4	6.5	6.5	12.5	7.8	7.1	6	4.9	4.8	3.9	3.7	1.6	1.3	0.2	-0.3	-0.1	0.6
平均月収の伸び(前年同期比: %)	2.6	7	11	11.1	19.7	19.7	16.3	16.7	15.8	15.8	20.3	14.0	11.8	12.1	10.4			

<対外債務>

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009 Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
政府対外債務 (million euro)	7074	6585	5198	4555	4092	4104	4047	4016	3981	4045	3995	4131	4143	4134	4133		4154	
民間対外債務 (million euro)	3592	6073	10309	16074	24763	32625	32398	32803	32430	32510	32875	32794	32259	32004	32425		32838	

<貿易赤字と外国投資>

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009 Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
外国投資 (million euro)	1851	2736	3152	6158	6517	6163	338	484	840	896	1087	1535	1885	2028	2112		2630	
貿易収支 (million euro)	-2426	-2954	-4410	-5562	-7245	-8758	-343	-693	-1139	-1612	-2045	-2395	-2715	-2971	-3230		-3727	